

施策分析シート（平成19年度）

No1

施策名	新産業・新事業の創出支援	施策No	05-02	部課名	産業経済部経営支援課		
				課長名	石原久	内線 455	
関連部課名							
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[]					
	政策	活力ある地域経済づくり[05]					
目的	<p>区が主体的役割を果たすことで構築する「産学官の顔の見えるネットワーク」を軸とした「荒川版クラスター」の形成をとおして、「新事業やベンチャーの創出」、「既存企業の第二創業や経営革新」を促進し、地域産業の活性化を図る。</p>						
指標	施策の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値 (28年度)	
	MACCプロジェクト参加企業数	-	-	43	70	200	
	産学連携研究開発助成件数	-	-	0	3	10	
現状と課題 (指標分析)	<p>荒川区は、長引く景気の低迷等により事業所の減少傾向は続いているが、区内事業所の約3割を製造業が占めるモノづくりの盛んなまちである。また、都心や筑波研究学園都市とのアクセスが良好な立地環境にあり、日本のモノづくりを支える高度な技術力を持つ企業が集積している。</p> <p>このような荒川区の産業集積や地域資源の豊かさを生かして、荒川区のモノづくりにかかわる企業、大学、研究機関、金融機関、支援機関等による「産学官の顔の見えるネットワーク」の構築を軸とした、技術と知恵を結集した新たな事業を絶え間なく生み出していく「荒川版クラスター」を形成することが必要。</p>						
今後の方向性	[平成19年度]						
	<p>コーディネーターによる継続的な企業訪問や交流会・シンポジウムの開催等により、「産学官の顔の見えるネットワーク」の構築を図っていく。</p> <p>既存のネットワークや支援機関等との連携を深めるとともに、対象地域に指定された「東葛川口つくば（TX沿線）ネットワーク」との広域連携を図っていく。</p> <p>産学共同による新製品開発を目指す「福祉・介護系新製品開発プロジェクト」など、「荒川版クラスター」の形成に向けた先導的プロジェクトを推進する。</p>						
	[平成20年度以降]						
	<p>コーディネーターによる継続的な企業訪問や交流会・シンポジウムの開催等により、「産学官の顔の見えるネットワーク」の構築を図っていく。</p> <p>既存のネットワークや支援機関等との連携を深めるとともに、対象地域に指定された「東葛川口つくば（TX沿線）ネットワーク」との広域連携を図っていく。</p> <p>産学共同による新製品開発を目指す「福祉・介護系新製品開発プロジェクト」など、「荒川版クラスター」の形成に向けた先導的プロジェクトを推進する。</p>						

施策の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
A	A	<p>荒川版クラスター形成に向けたMACCプロジェクトの推進は、区内産業活性化のためには極めて重要であり、当該施策の優先度は極めて高いと考える。</p>

No2

施策分析シート（平成19年度）

施策を構成する事務事業の分類

事務事業名	事務事業 No	決算額（千円）		施策推進のための 分類		分類についての説明・意見等
		17年度	18年度	前年度 設定	今年度 設定	
モノづくりクラスター形成促進事業	04-02-05	-	-	-	A	荒川区の地域経済活性化のためには、ものづくり産業の集積や地域経済の豊かさを生かした「産学官の顔の見えるネットワーク」構築を軸とした「荒川版クラスター」の形成に向けた取組みが極めて重要。
産学官連携研究開発促進事業	04-02-06	-	4,960	A	A	MACCプロジェクトを推進し「産学官の顔の見えるネットワーク」を構築するために、大学等が有する専門知識を活用した産学共同による新製品・新技術開発を支援することは極めて重要。
合 計		0	4,960			